

令和 4 年度 県立鉾田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す生徒像	○ 高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 ○ グローカルな視点と行動力を持った生徒 6 年間の教育計画により、全教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな教育を実践する。		
	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
・新型コロナウイルス感染症防止のため、多くの制約の中で、最大限に学習活動や体験活動を実施することができた。感染症予防による休校期間（9 月）を経て、10 月より本格的に学校生活を再開した。 ・教育課程の特性を生かした授業時間数増、また、国語・数学・英語における少人数制学習やティームティーチング等により、基礎学力の向上を図ることができた。 ・休校期間中（9 月）は、ICT 教育の利点を大いに活用した。オンラインによる授業や生徒面談等により、生徒の学習機会を確保し、教員と生徒とのつながりを保つことができた。また、ICT を活用した保護者との連携も積極的に行うことができた。今後は、ICT 活用の質を高める工夫を行っていく。 ・今年度も、生徒の主体的な活動を積極的に推し進め、学級活動、委員会活動、学校行	基礎学力・授業の質の向上	・「単元テスト」の特性を活かし、基礎学力の定着を図る。 ・学習が知識の習得のみに偏らぬよう、思考力・判断力を育み、「自ら課題を発見し、解決する力」の向上を図る。 ・授業力向上のため、教員間の相互授業参観と校内授業研修を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が教材研究や自己研鑽に努める。	・各教科において単元テストを適宜実施している。全国学力調査及び学力推移調査等では、秀でた成績を収めることができた。
	個に対応した指導の充実	・生徒の学習状況を適切に見極め、指導方法・指導内容を工夫し、少人数学習の特性を最大限に活かす。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施し、組織的対応を図る。 ・ICT の活用により、個別最適な学びを推進する。	・学力の差が広がりつつあり、上位の生徒はもちろん下位の生徒に適切な支援をしているところであるが、継続して支援をしていく必要がある。
	進路意識・進路実績の向上	・中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や希望進路実現につなげる。 ・各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方や生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させると共に、悩みや不安に寄り添う時間とする。 ・進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・難関国公立・私立大学の合格者数増につながる学習を継続させる。	・学力推移調査の結果を踏まえた進路講演会を実施し、生徒が自分自身で学習面における課題について考えを深めることができた。 ・職業体験を通して、生徒たちのキャリアに対する意識を高めることができた。 ・「高校 0 年生プラン」として中 3 生に対し、高校での生活と学習を意識させた指導を実施した。
	特別活動・部活動の活性化	・学校行事への主体的な参加を促し、学級活動や委員会の活動にも主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部ごとの活動目標を明確にし、県大会以上の大会に出場できる部活動を増やす。 ・キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。	・コロナ禍の影響で制限を受けたが、可能な限りの体験活動を実施することができた。今後は中学生企画のクラスマッチ・体育祭を実施する予定である。 ・女子ソフトテニス部や剣道部、陸上競技部などが県大会へ出場し

事等の活性化を目指す。また授業や総合的な学習の時間において、体験的な活動を積極的に取り入れ、生徒の主体性を伸ばしていく。部活動は、限られた設置数の中でも、活発に活動できるように指導助言を重ねていく。 ・学校ブログ等による情報発信を積極的に行うことで、地域からの理解を高めることができた。ホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫する。			た。競技かるた部は全国大会に出場した。 ・Classiにて、キャリアパスポートが作成できるデータ様式を整備したことにより、年間の見通し、振り返りを重視した活用が図られた。		
	マナーや規範意識の向上	・制服・私服選択制の導入及び校則の廃止をとおして、生徒が自ら考え、率先してルールやマナーを順守しようとする態度を育てると共に、全職員が共通理解をもって指導にあたる。 ・異学年交流を通して、生徒の自己有用感を高めることにより、規範意識の向上を図る。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒一人一人の特性や発達段階に応じた指導を図る。	・制服私服選択制について、継続的に議論を継続する中で、生徒が主体となって関われるようになった。 ・規範意識の向上やマナーを遵守しようとする態度が育った。今後も継続的に支援する。		
	学校評価の推進	・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動を充実させ、保護者目線を基準にして、学校を活性化させる。	・評価等についてはよりよい評価ができるよう検討を続ける必要がある。 ・ホームページを行事ごとに更新し外部への発信をおこなうことができた。		
	働き方改革	・令和4年度末の月の超過在校等時間 45 時間超え者ゼロを目指す。 ・年間の休暇取得日数 20 日間を目指す。 ・附属中組織の再編による業務の平準化と効率化を図る。特に主任等による年間計画及び全体計画等の作成により、目的と目標を明らかにした見通しをもてる効果的な教育活動を行う。 ・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化を図る。 ・あいさつ、声かけ、ものごし、配慮等を大切に、働きやすい職場環境づくりを一人一人が担う。	・時間外在校等時間 45 時間超え者ゼロを目指したが、結果は約半数(80 時間以内)に留まった。 ・年間休暇取得日数は 1 人平均 19.6 日間。職員間に休暇取得しやすい雰囲気が醸成されている。 ・組織再編による体制により効率的効果的な教育活動が実施できた。		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
国語	・国語への興味関心の高揚と基礎的な知識の定着	・図書館との連携を強化し、読書指導の充実を図る。	B	B	・自律的な学習習慣の定着 ・小テスト等を活用した基礎的な知識の定着 ・論理的思考力・表現力の定着及び伸張 ・読書習慣の定着
		・漢字、語彙の学習を通して、表現に必要な基本的な知識を身につける。	B		
	・読解力、表現力の養成	・文章を要約したり、スピーチを聞いてまとめたりする学習を通して、他人の考えを分析的に理解する力や批評する力を養う。	A		
		・複数の意見を比較する学習を通して、幅広い視野や考え方を養う。	A		
	・生徒が主体的に学習する環	・ICT を積極的に活用した授業を展開し、学校図書館や地域の図書館との連携強	B		

	境の整備	化を図る。			
		・生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、授業の展開や単元テストの内容を工夫する。	A		
		・課題の設定を工夫し、学習習慣の確立を図る。	B		
	・指導技術の向上	・教員間の授業公開や意見交換を積極的に実施し、指導技術の向上を図る。	B		
社会	・確かな学力の向上	・各授業の単元において、問題解決的な学習課題を意図的に設定することで、生徒が主体的に学びに向かうよう工夫を図る。	A	B	- 問題解決的な学習課題や単元を貫く学習課題の設定 - 生徒が主体的に学びに向かうような授業改善 - 生徒が意見交換を容易にできるような ICT 環境（アプリケーション）の整備 - 生徒が基礎的内容を理解できるような、単元テストの活用方法の模索
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・単元テスト等を活用して生徒理解を適切に行うことで、基礎的内容の理解と徹底を図る。	B		
		・言語活動を多く取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。	A		
		・生徒の意欲的な学習参加を促すため、教材を工夫し、「わかる授業」の展開を図る。	A		
		・ICT教育のさらなる推進を行うために、パワーポイントやデジタル資料、クロームブックの適切な活用を図る。	A		
		・授業における ICT の活用による円滑なシェアリングを通して、生徒が多様な意見にふれることができるように工夫する。	B		
		・大学入試共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行い、資料の比較や、レポートを作成させる等、表現力の向上を図る。	B		
	・現代の社会への関心の高揚	・我が国の伝統や文化、法や金融、消費者行政、人権等に関する諸問題を取り上げ、現代の社会への興味・関心を高める。	A		
数学	・きめ細かな授業の展開	・生徒の理解度を把握して、授業の展開や説明方法を工夫する。	A	B	- 生徒の理解度に応じた適切な課題の精選による基礎学力の定着 - 家庭学習習慣確立のための支援 - 高校との連携をより一層強固にすることによる、指導の一貫性の向上
		・1学級を2つに分けるなどして、基礎学力の定着を図る。	A		
	・家庭学習習慣の確立と応用力の養成	・問題集等の課題により、家庭学習習慣の確立を図る。	A		
		・授業で問題演習の時間を確保し、発展的な内容も扱う。	A		
	・意欲をさらに高める指導	・難度の高い問題も提供し、生徒のさらなる意欲と数学力の伸長を図る。	A		
		・放課後等の時間を活用し、生徒の質問に対応する。	B		
	・指導技術の向上と指導方法の工夫	・授業参観を相互に行い、意見交換を行う。	B		
		・中学・高校の枠を越えて、問題の解法や指導方法について研究する。	B		
理科	・学力の向上	・単元テストを実施し、知識の定着を図る。	A	A	単元テスト・小テストで理解度の確認・復習の機会の増加
		・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し、学習活動を充実させる。	B		

	・設備、備品の充実	・実験・観察による学習を通して興味関心を持たせ、学習意欲を向上させる。	A		- 科学的思考力の育成と知識の定着に重点を置いた指導 - ICTの効果的活用のさらなる模索 - 共通テストに向けた実践的な指導
		・設備備品を整備し、学習環境をより良いものにしていく。	A		
		・Chromebook、GSuiteを中心としたICTの効果的な活用を行う。	A		
	・指導力の向上	- 共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。 - 高校の各科目と連携し、教材研究を行う。	B		
音楽	・音楽表現への意欲	・視聴覚教材等を利用して分かり易い授業の展開を図り、音楽・音楽文化への興味関心を高め、音楽表現への積極的な取り組みを促す。	A	B	- 多彩な表現方法があることへの気づき - 上記への技能の習得
	・表現の技能の習得	・様々な楽器の演奏を体験させ、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけさせる。	B		
	・音楽に親しむ態度の育成	・古典的な音楽から現代音楽まで幅広い音楽を視聴することで、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養う。	A		
美術	・主体的表現活動	・美術作品の良さや造形的な視点について理解することで、表現方法を創意工夫し、自ら創造的に表す態度を育てる。	B	B	- 様々な題材を通しての技法の習得 - ICTを活用した鑑賞の能力の向上 - 積極的に制作に向かう姿勢の育成
	・個々の能力を伸ばす工夫	・個々の力を伸ばすため、補助や助言を行ったり、手本を示したりして、個人指導の充実を図る。	A		
		・積極的な作品づくりを促し、技能を伸ばすとともに、様々な表現技法を習得させる。	A		
	・鑑賞する力の育成	・美術作品に触れる機会や生活の中の美術の働きを考えることを通して、鑑賞の能力を高めるとともに、芸術を愛好する心を育む。	B		
保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B	B	- 実技でのICTを活用した授業展開 - 体力の向上に向けた授業展開の工夫 - 感染症防止の継続的な対策
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A		
	・授業の充実	・授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。	B		
	・規範意識の醸成	・授業を通して、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。	A		
	・副教材を利用した授業の工夫	・Google Classroom、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。	A		
技術	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の向上	・授業の中に身近な生活に関する情報を取り入れ、生活における課題を見つけることができる発問の工夫をする。	A	A	情報活用能力のさらなる向上
		・思考ツールなどを活用した対話的活動を多く取り入れ、生徒が多角的に課題をとらえ解決できるようにする。	A		
	・見通しをもつことができる学習展開	・基礎的な技能や知識を事前に習得したことを実習や実験につなげ、生徒が主体的に取り組むことができるようにする。	A		
		・題材における学習計画を伝え、学習内容の見通しをもたせることで理解力の向上に	A		

		つなげる。			
	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。	B		
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分にも配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を育てる。	B		
家庭	・基礎的な知識と技術の習得	・生活に関する基礎的知識と技術の習得を図る。	A	A	・生活に関する知識と技術の習得、社会の変化に対応できる力の育成
		・実生活に即した実験、実習を取り入れ、日常生活に応用できる知識と主体的に行動できる力を養う。	A		
	・生活の向上を図る実践的態度の育成	・生活に関する最新の情報を授業に取り入れ、社会の変化に対応できる能力を養う。	A		
英語	・Google Classroom を活用し 具体的目標を意識させた学習習慣の確立	・Google Classroom を活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。	A	A	・Google Classroom や ICT 機器の活用および、英語における 4 技能 5 領域をさらに向上させる学びの形態の工夫 ・生徒の状況を踏まえた個別対応や少人数制、習熟度別学習形態の構築と改善
		・Google Classroom の内容を充実させる（予習や宿題、課題テスト及び単元末テスト等）。 ・意欲的に英語学習ができるよう英検、ALT の活用を促す。 ・課題テストを年 30 回実施し、学習の習慣化を一層図る。 ・学年末に TOEIC BRDGE を全員受検し、到達度を確認する。	A		
	・生徒の多様な学力に応じた指導の充実	・少人数制学習の利点を生かし、授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる 4 技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。	B		
		・補習や classroom 等をとおして、個別対応を充実させる。 ・個々の英語力に応じてサイドリーダーを利用して多読を奨励する。	B		
		・学力推移調査を実施し、個々の英語総合力を判断する。また弱点部分を補填・強化できるよう事後の指導に役立てる。 ・英検受験を奨励する。			
	・英語 4 技能の向上	・「聴く・話す・読む・書く」の 4 技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践する。	A		
道徳	・目標達成のための授業の展開	・自己を見つめること、人間としての生き方についての考え等を深めるために、話し合い活動等を充実させることにより多様な価値観にふれることをとおして、道徳的实践力を育てる。	A	B	・生徒が多様な価値観にふれられるような学習展開の工夫 ・年間計画を踏まえ、生徒の発達段階に応じた適切な題材の提示
	・道徳資料の有効活用	・道徳の教科書に加えて、日常生活や社会の出来事など、身近な出来事を教材化し、生徒が積極的に話し合える授業を行い、道徳的価値を十分に考えることができるようにする。	A		

	・教育活動全体を通じた道徳	・特別の教科道徳を教育活動全体の要とし、全教育活動をととして道徳教育を推進するとともに、生徒の発達段階や特性等を適切に把握し、指導内容の重点化を図る。	B		
	・道徳の評価	・生徒がよりよく生きようとする努力を受け止め、道徳性にかかる成長の記録を継続的に把握し支援することで、生徒自身の成長や道徳性の育みを促す。	B		
総合的な学習の時間	・探究的な学習への取組	・探究的な学習の良さを実感するために、生徒の知的好奇心を刺激し、銚田市や自分の住む地域を積極的に調べようとする意欲の高い生徒を育てる。	A	A	・銚田市役所や商工会議所等、外部団体との連携強化 ・3年間を見通した学習計画の見直し・改善 ・外部教材の有効活用 ・国際教育の充実
	・社会や地域活動への参画	・探究的な学習を通して調べたことや実践に生かすため、自分の地域の活動に参加したり、地域に貢献できる活動を行ったりして、社会参画しようとする意欲を育てる。	A		
教務	・授業時数の確保	・授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。	A	A	・国語、数学、英語における少人数制のグループ編成のさらなる工夫
	・充実した授業を目指した教育課程の編成	・各教科と連携し、生徒の学力や希望する進路に即した教育課程を研究し、編成する。	A		
		・少人数制学習におけるグループ編成を工夫するなど、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。	A		
	・行事等の円滑な運営	・各分掌とのコミュニケーションを密にし、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。	A		
	・成績等の円滑な処理	・情報管理部と連携し、校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。	A		
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動の積極的な発信による「銚一ブランド」の確立	・スクールガイド、ポスター、プロモーション用動画の作成 ・小学校訪問の実施 ・進学フェアへの参加	A	A	・夏季休業中にオープンキャンパスを実施し、9月初旬にスクールガイドを各小学校へ配付。公式HPは週一回程度の頻度で更新 ・部活動ページの充実
		・オープンキャンパス（小学生対象）の企画、運営 ・学校公式ウェブページの内容の充実	A		
	・本校に対する外部の声の広範囲からの収集	・学校評価アンケートの実施、集計、分析	B		
生徒指導	・生徒が安心安全に学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 ・基本的生活習慣と規則を守る態度の育成 ・各学年及び各部所と連携し	生活関係		A	・制服の在り方について、生徒とともに考える姿勢 ・スマホの使用について、家庭と連携を密にとり、適切にルールを
		・制服・私服選択制の導入にともない、どのような服装をすべきかについて、生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。	A		
		・校則の廃止にともない、学校生活について生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。	A		
		・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。	B		

	た生活指導の推進 ・高等学校への接続を意識した生徒指導の推進	・登校指導を実施し、挨拶の励行を徹底する。	A		設定し、遵守できるような支援 ・落とし物が多く届けられたため、次年度はより声かけを多くし、落とし物返却率を向上させる工夫 ・さわやかな挨拶を交わせる生徒を増やすために、マナーアップ運動や、日々の挨拶指導への注力 ・長期休業前の生徒指導部からのお知らせに関して、進路とタイアップすることで充実した内容の工夫	
		・さわやかマナーアップ運動を通して、マナー・モラルの向上を図る。	A			
		・時間を自己管理できるよう、継続的に声をかけ、時間を守る意識を高める。	B			
		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を生徒が自主的に出来るよう啓発を図る。	B			
		・スマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守できるように啓発を図る。	A			
		・校内巡視を実施し、生徒の様子を直接把握するよう努める。	A			
		・いじめを絶対に許さない姿勢といつでも相談できる受容的な姿勢を、教員間で共有し、生徒に発信し続ける。	A			
	・非行や事故等の未然防止と早期発見に向けた取組	交通関係				
		・公共交通機関における利用方法に関する指導	A			
		・交通安全講話の実施	A			
		・自転車点検及び交通安全指導の実施	A			
		問題行動未然防止対策				
		・被害調査（アンケート等）を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。	A			
		・インターネット利用講座の実施とスマホルールづくり等の保護者への協力を依頼する。	A			
	・スクールバスの円滑な運行と安全確保	・長期休業前に生徒指導部からのお知らせを発行することによる問題行動等の未然防止を図る。	A			
		・薬物乱用防止教室を実施する。	A			
		・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と緊密に連絡を取りながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。	A			
教育相談	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報	A	A	・相談室便りの配布等によるカウンセリングの周知 ・保護者、校内関係者、スクールカウンセラーとの円滑な連携による生徒支援	
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討	A			
		・学年会議での情報収集	A			
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング	A			
	・適切な援助活動の実施	・援助が必要な生徒との面談・必要に応じた保護者との面談	A			
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助	A			
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整	A			
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議	A			
	・教育相談研修	・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施	A			
		・外部で行われる研修会の紹介と参加	B			
進路指導	・体系的な進路指導の実施	・中高一貫教育の利点を活かすため、6年間を見通した進路指導を行う。	B	B	・手帳を活用した、スケ	

		・1 学年では、地域探究を通して、地域の課題に対する理解を深め、地域へ貢献しようとする意欲を育てる。	A		ジュールの管理能力を伸ばす指導
		・2 学年では、国内語学研修を通して国際的な視野を育てるとともに、科学的な研究にも触れ、グローバルに活躍しようとする意欲を高める。	B		
		・3 学年では、生徒自身がこれまでの多様な経験を生かして自らの将来像を描けるようにし、高校段階での進路指導につなげる。	A		
	・学習習慣の確立 (平日の最低家庭学習時間 学年＋1 時間の確保)	・家庭での学習習慣を確立させるため、クラッシー等の学習記録機能を活用するなどして、日々の取り組みを可視化させる。	B		
		・学習実態調査の実施（年3回）			
	・効果的な学習指導法の研究 と実践	・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付）	B		
		・先進校視察等、研修の機会を設け、指導法等の研鑽に努める			
	・進路情報の収集と提供	・生徒面談を通して、生徒の動向の把握に努める。	A		
		・研修会等に参加して、情報の収集に努める。	B		
		・進路資料、情報誌の配付などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	B		
	・学力向上	・各学年や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報を共有化して指導を行う。	A		
		・各学年や教科で連携しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	A		
	・学習環境の整備	・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。	A		
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。	A	B	・生徒が主体となる行事の設定 ・高校との連携・協力を図った生徒会組織の発足 ・部活動へ加入促進
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。	B		
	・部活動の活性化	・部・同好会への加入率 80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・それぞれの部・同好会が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。	B		
	・学級活動の充実	・学校行事や進路指導に伴う学級活動だけでなく、レクリエーション等、各学級活動ならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動を通して協調性や団	B		

		結心を養う。			
	・キャリアパスポートの活用	・生徒一人一人が自分の足跡を残せるように意識させ、記録を残していけるような助言・支援を行う。	B		
保健安全	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断を行い、適切な保健指導を実施する。	A	A	・計画に沿った健康診断を行い、結果の家庭通知、及び受診勧告を行い、学級活動や便りを通して、保健指導を実施 ・生徒が利用しやすいような保健室環境を整備 ・環境衛生検査や防災訓練、放射線測定等、健康で安全な学校生活環境を整備 ・スポーツ振興センターの適正な利用
		・保健室を円滑に運営する。	A		
	・清掃活動の徹底	・日常的な清掃活動（校舎内外の美化）を適切に行う。	A		
	・防災意識の高揚	・防災訓練を実施する。	B		
	・環境衛生の整備	・環境衛生点検を定期的に行う。	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・学年で連携して報告を行う。	A		
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・各部と連携して有効に活用する。	A		
	・放射線の測定	・放射線の定期的な測定と報告を行う。	A		
図書館	・教育課程等の展開に即した資料の充実	・図書館部予算を的確に執行する。	A	A	・図書の貸し出し数増加に向けた新着図書案内の工夫 ・中高連携のさらなる進展に向けた指導体制の構築と工夫
		・購入希望図書の調査を実施し、図書の貸し出しと図書館の利用機会を増やす。（教員・生徒対象）	B		
		・より良い図書を選定するための情報収集を行う。	A		
		・探究活動に対応した選書をし、授業で利用できる資料の充実を図る。	A		
	・読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養わせる。	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施する。	A		
		・読書会、移動図書販売等を通して、読書に対する興味・関心の向上を図る。	A		
	・図書館の正しい利用の態度を養い、自学自習の場としても利用させる。	・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせる。	A		
		・各学年・高校とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序が保たれるよう努力する。	A		
	・生徒図書委員活動を通して、生徒の自主性を養わせる。	・部職員の指導の下、委員会活動を活性化する。	A		
		・図書館総選挙の投票集計と結果作成・学校行事における図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、生徒にとって図書がより身近なものとする。	A		
	・図書館管理システムの整備を進め、利用の向上を図る。	・バーコード管理システムを活用し、入力・装備の整備等を実施する。	A		
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。	B		

渉外	・コロナ禍における状況の変化に対応した事業の遂行	・評議員会理事会や後援会総会、生徒指導委員会総会などの事業報告や承認の可否について、封筒や郵送によるアナログなものと、HPを始めとするデジタルなもので学校として可能な手段を用いて、会務を遂行する。 ・収束した場合、役員の方々を中心に協力して頂きながら可能な範囲で事業を行う。	A	A	・コロナ以前のような行事の遂行 (先生方の異動や3年間のブランクがあるため) ・後援会組織のスリム化と役員業務の明確化(スリム化2年目) ・同窓会の組織改編および業務整理と役割の明確化 ・110周年に向けて、100周年事業の残務整理の完結
	・渉外部としての、100周年記念事業の推進	・100周年(同窓会)事務局での渉外部の役割を明確にし、連携を図って100周年記念事業を進めていく。	A		
	・附属中も含めた後援会の構築	・組織を整理し後援会規約(会則)の改定を行うとともに、附属中の保護者の方から役員を選出する。	A		
1 学年	・基礎学力の向上	・英語、数学、国語で必要に応じて習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着と向上を図る。	A	A	・基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図っており、基礎学力については定着してきているが、学習習慣の個人差が課題 ・生活面での課題は、挨拶や身だしなみなどの基本的な生活習慣の定着が課題
	・家庭学習の習慣化	・授業、復習の重要性を認識させ、生徒の家庭学習時間が1時間以上行われるよう指導し、基礎力の充実を図る。	B		
	・進路についての意識	・個人面談、進路ガイダンス、大学見学会、職業講話等のキャリア支援を通して、自己理解・社会理解に努め、自己実現の素地を養う。	A		
	・基本的な生活習慣の定着	・「集団の規律を守り、個々が快適な環境を作るための責任を持つ」という意識を持たせる。その実現を図るために、身だしなみ、挨拶、清掃及び時間厳守について指導する。	A		
	・生徒への対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に情報を学年で共有し、養護教諭や教育相談部及び保護者との連携に努める。	A		
	・部活動活性化の促進	・部活動への積極的な入部を勧め、様々な自己表現の機会を与え、内面の成長を促す。	A		
2 学年	・基礎学力の向上	・英語、国語、数学での少人数及びティームティーチング授業を充実させ、必要に応じて習熟度別学習を行うなど、基礎・基本の定着を図ることに努める。 ・模試によって、自分の実力を把握し、普段の学習にフィードバックさせる。	A	A	・各教科ともに基礎学力の向上に繋がる仕掛けを行いより高い水準へ向上 ・上級検定試験への挑戦 ・更なる家庭学習充実に向けた仕掛け
	・家庭学習の習慣化	・授業を学習機会の最重要点と認識させ、(予習→)授業→復習のサイクルの定着を改めて行い、最低家庭学習時間3時間を確保し、学習の支援に努める。	B		
	・進路意識の高揚	・個人面談、進路講話等のキャリア支援行事を通し、自己理解・社会理解に努め、自らの進路を考える時間を確保させ、進路に向けた生徒自身の意識の高揚を図る。	A		

	・基本的な生活習慣の定着	・個々が快適な環境を作るための責任を持つという意識の醸成に努め、集団の規律を守ること、社会的な言動とはどのようなものかを考えるなど、集団生活に必要なことを一つ一つ身につけさせていく。	A		
	・個々の生徒への適切な対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に学年で情報を共有し、教育相談部及び保護者との連携に努める。	A		
	・課外活動の促進	・部活動、長期休業中の課外、校外でのボランティア活動等への積極的な参加を勧め、様々な機会の中で自己実現の一助とする。	A		
3 学年	・高校入学後につながる学力の維持と人間力の育成	・授業中心の学習活動を通し、授業の大切さを理解させるとともに全国レベルの実力を養う。高校進学後も学力を維持し伸ばしていけるように、確かな基礎学力・表現力を身につける指導を実践する。	A	B	・英国数の3教科をベースとした、高い学力の育成 ・家庭学習の提出率が100%となるよう、生徒に目標意識を持たせ、取り組めるような声かけ ・「文武不岐」を実践できるような、生徒への適切に声かけや面談の実施 ・様々な特別活動において、生徒が主体的に行動し、リーダーシップを発揮できるような、声かけや組織づくりの工夫
		・日常生活での自己管理を徹底させるとともに、家庭学習の習慣化と自学自習できる力を育む。また、学習と並行して進路のことについても考えを深め、将来の希望進路を考えながら学習に打ち込む生徒を育成する。	B		
		・学力の向上を図るための努力を惜しまず、全国模試を定期的に受験させ、全国レベルでの学力を客観的に把握させるとともに実践的学力を養う。	A		
	・進路希望の実現に向けた細やかな指導	・進路目標の実現に向けて、個々に応じた面接指導を頻繁に展開し、目標の確認と反省、学習計画の見直し等を図り、きめ細かな進路指導を実施する。	B		
		・詳細なデータ分析を基に、どの生徒に何を求めていくかについて、関係する学年スタッフ間で共有し、生徒に提供する。	B		
		・図書館や進路室を活用して生徒自ら進路情報を収集させるとともに、自主的に学習に取り組み、進路目標を達成できる学力・精神力を涵養する。	A		
	・銚田一高附属中生としての誇り・自覚の高揚と地域・社会の中核となるべき人間の育成	・「文武不岐」の伝統の下、部活動や学校行事に積極的に参加させる。その中での人と人との関わりを通して、コミュニケーション能力、問題解決能力等を育む。	A		
		・様々な活動の中で、常に銚一附属中のよりよい文化と校風の創造者としての自覚を持たせ、リーダーシップを発揮できるよう指導する。	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分